

年		組		名前	
---	--	---	--	----	--

1 直線 l 上の点 P を通る l の垂線は、下の手順①, ②, ③で、図1のように作図することができます。

手順① 点 P を中心として適当な半径の円をかき、直線 l との交点を点 A , 点 B とする。

手順② 点 A , 点 B を中心として、等しい半径の円を交わるようにかき、その交点の1つを点 Q とする。

手順③ 点 P と点 Q を通る直線をひく。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 図1の点 Q , A , P , B を順に結ぶと、 $\triangle QAB$ ができます。この $\triangle QAB$ を紙にかいて直線 PQ を折り目として折ったとき、点 A が重なるのはどの点ですか。その点の記号を書きなさい。

点

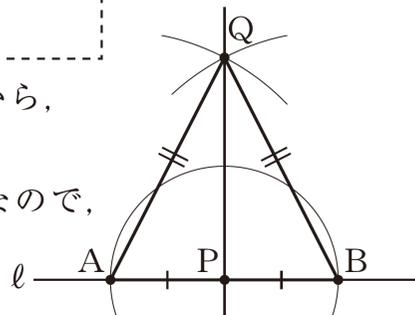
(2) 図1の直線 PQ が直線 l の垂線であることを示すために、 $PQ \perp l$ を証明します。

手順①から $AP = BP$, 手順②から $QA = QB$ となることが分かります。これらをもとに、 $\triangle QAP \cong \triangle QBP$ を示し、下の証明を完成しなさい。

証明

$\triangle QAP$ と $\triangle QBP$ において、

合同な三角形の対応する角は等しいから、
 $\angle APQ = \angle BPQ$
 $\angle APQ + \angle BPQ = \angle APB = 180^\circ$ なので、
 $\angle APQ = \angle BPQ = 90^\circ$
 したがって、 $PQ \perp l$



(3) 点 P が直線 l 上にない場合も、 l の垂線を前ページの手順①, ②, ③で、図2のように作図することができます。

図2 点 P が直線 l 上にない

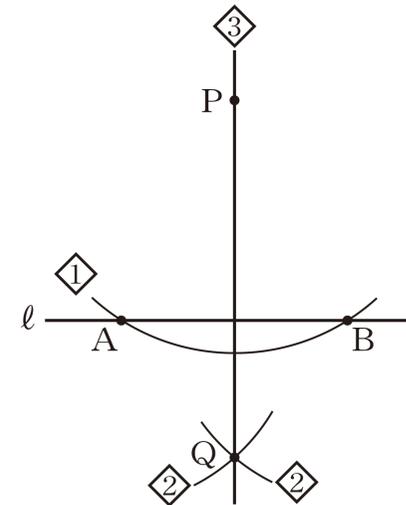
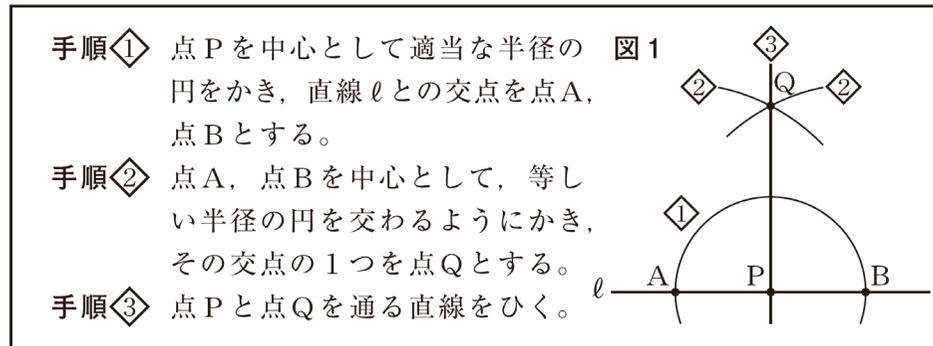


図1(前ページ)と図2のように、点 P が直線 l 上にある場合も l 上にない場合も、同じ手順①, ②, ③で垂線が作図できます。

このように作図できるのは、この手順による点 Q , A , P , B を順に結んでできる図形が、どちらの場合も、ある性質をもつ図形だからです。その図形が下のアからエまでの中にあります。正しいものを1つ選びなさい。

- ア 直線 PQ を対称の軸とする線対称な図形
- イ 直線 l を対称の軸とする線対称な図形
- ウ 点 Q を対称の中心とする点対称な図形
- エ 直線 l と直線 PQ の交点を対称の中心とする点対称な図形

1 直線 l 上の点 P を通る l の垂線は、下の手順 ①, ②, ③ で、図 1 のように作図することができます。



次の (1) から (3) までの各問いに答えなさい。

(1) 図 1 の点 Q , A , P , B を順に結ぶと、 $\triangle QAB$ ができます。この $\triangle QAB$ を紙にかいて直線 PQ を折り目として折ったとき、点 A が重なるのはどの点ですか。その点の記号を書きなさい。

点 **B**

(2) 図 1 の直線 PQ が直線 l の垂線であることを示すために、 $PQ \perp l$ を証明します。

手順① から $AP = BP$, 手順② から $QA = QB$ となることが分かります。これらをもとに、 $\triangle QAP \equiv \triangle QBP$ を示し、下の証明を完成しなさい。

証明

$\triangle QAP$ と $\triangle QBP$ において、

(例) 手順① より $AP = BP$ ……①
 手順② より $QA = QB$ ……②
 共通な辺は等しいので $PQ = PQ$ ……③
 ①, ②, ③より
 3組の辺がそれぞれ等しいから、
 $\triangle QAP \equiv \triangle QBP$

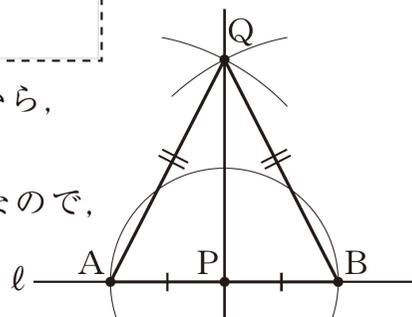
合同な三角形の対応する角は等しいから、

$$\angle APQ = \angle BPQ$$

$$\angle APQ + \angle BPQ = \angle APB = 180^\circ \text{ なので、}$$

$$\angle APQ = \angle BPQ = 90^\circ$$

したがって、 $PQ \perp l$



(3) 点 P が直線 l 上にない場合も、 l の垂線を前ページの手順 ①, ②, ③ で、図 2 のように作図することができます。

図 2 点 P が直線 l 上にない

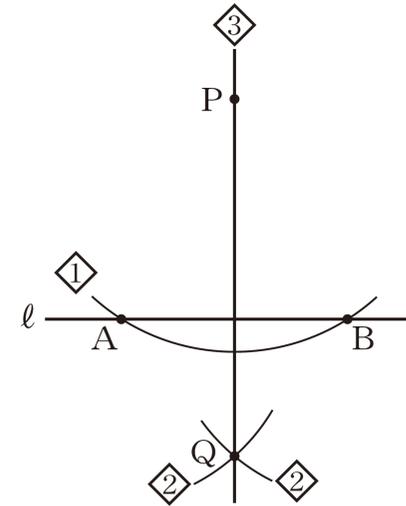


図 1 (前ページ) と図 2 のように、点 P が直線 l 上にある場合も l 上にない場合も、同じ手順 ①, ②, ③ で垂線が作図できます。

このように作図できるのは、この手順による点 Q , A , P , B を順に結んでできる図形が、どちらの場合も、ある性質をもつ図形だからです。その図形が下の **ア** から **エ** までの中にあります。正しいものを 1 つ選びなさい。

- ア** 直線 PQ を対称の軸とする線対称な図形
- イ** 直線 l を対称の軸とする線対称な図形
- ウ** 点 Q を対称の中心とする点対称な図形
- エ** 直線 l と直線 PQ の交点を対称の中心とする点対称な図形

ア